

楽しい情報
満載!

KanoGomi
明るく元気な鹿野をつくる情報誌

みんなで創る
情報誌

vol.25

かのこみ

民泊最高!

受入家庭の声

◆先日お礼の手紙をもらいました。その中に、「また遊びに来たい」と書かれていました。また会える日を楽しみにしています。

保護者の声

◆帰り際には涙をぼろぼろ流して、バスの窓を開けて手を振ってくれました。こちらとしてはそんなにたいしたことが出来たかどうか分かりませんが、毎回来られた生徒さんたちが喜んで帰って下さることに感謝しています。

◆民泊先で教わった料理を家でも披露してくれました。美味しかったです。◆行く前は正直不安でした。でも帰ってきて、親も子も「できたー」という自信がまたひとつ増えたように思います。親子の会話も増えました。

生徒さんの声

◆初対面でも温かく迎え入れてくれる人たちがいることを知りました。短い時間でも本当の家族だと思えた気がします。◆自然がとても綺麗で、住んでいる人がとても親切で優しく、「都会」にはない「田舎」の良さについて改めて知ることができました。

大好評!
軽トラレストラン

事務局から

▼「周南学びの旅」は、地域づくりのための一つとして取り組んでいます。▼初めて受入れをされるご家庭の方からは、「どんな体験をさせてあげればよいのか?」と聞かれますが、生活体験なので、家庭で自然体でできることをしてもらおうようお願いしています。

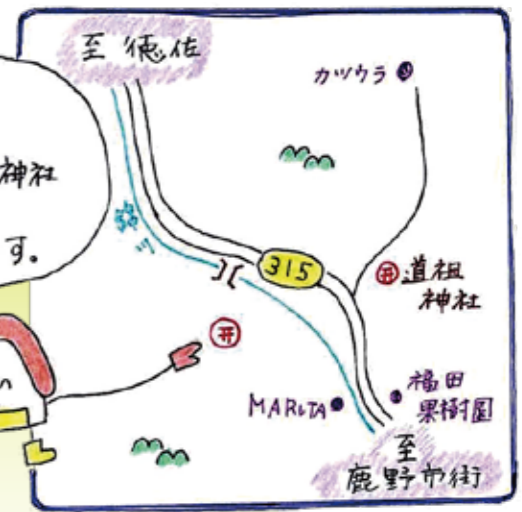
ほころいでほっこり... vol.4



大潮西河内地区
きふね
＜貴布祢神社＞

由来は、その昔その地区に水不足の被害が続いたとき、白馬に乗った神様のお告げにより皆が救われたという伝説があり、1240年白馬大明神を迎えられています。その後、高居河内大明神や錦町の貴布祢社から持って来られた社を合わせられ、その名になったとのこと。

今回の
貴布祢神社
は
ココです。



冬花火

今年で24回目となる『鹿野冬花火 銀嶺の舞』、天気にも恵まれ、会場は大勢の人で賑わいました。澄んだ夜空にレーザー光線の光と音楽に乗せて、1500発の花火がとても幻想的で、同時にスマホを手に取り写真を撮る姿がとても印象的でした。

2016写真コンテスト入選作より



公民館の窓から

かのこ会

花柳千織鶴先生のご指導の元、会員6名で活動しています。鹿野地区のほとんどのイベントに参加する事で、地域の方に喜んでいただき、私たちも励みにしながら頑張っています。



今年も花粉症に
悩まされました

●チャレンジ!!花粉症クイズ
(O×で答えて下さい)

- ①花粉症は日本にしかない O ×
- ②花粉が最も飛散する時間帯は午前9時から10時である O ×
- ③花粉症は田舎より都会に多い O ×
- ④花粉症の症状緩和には牛乳が効果的である O ×

×-⑦ ○-⑧ ×-② ×-①: 正解

第4回 読解力を身に付ける

以下の文章を読んで、問題に答えてみてください。
「仏教は東南アジア、東アジアに、キリスト教はヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニアに、イスラム教は北アフリカ、西アジア、中央アジア、東南アジアにおもに広がっている」
問題：オセアニアに広がっているのは? ()



文責：
藤井塾主宰 藤井隼介

いかがでしたか?
これは、国立情報学研究所の作成した読解力テストですが、公立中学校の正答率はなんと57%でした。これを間違えるということは、教科書を読んで理解するというのはかなり難しくなってくるということです。読解力を身に付けるためには、まずはわからないときは図にする練習をしましょう。上の問題も表にしてみれば簡単です。もう一つは短期記憶です。文章を頭に入れて整理するためには、短期記憶が大切です。これも、暗唱や音読を通して身に付けていきましょう。そうすれば、勉強自体がもっと楽しくなってくるはずです。

藤井塾主宰: 正解

民泊、やってみました！

Nさんの場合

① 受け入れの理由

孫が泊りに来る！の思いで決心！
市の担当者から、民泊事業の説明を聞いたのがキッカケ。不安はあったが、自分の孫が泊りに来ると思つて接すれば何とかかなる、と引き受けた。

② 実際受け入れてみての感想

とにかく明るく楽しい西村家に変身！
実に明るく楽しい三日間だった。生涯の思い出となるような体験をさせてたくて、潮音洞や鹿野の歴史文化、農業体験、動植物と自然の深い関係などを話したら、子どもたちは真剣に聞いてくれ、十分理解してくれた。受け入れ前から自分が考えていた目的が叶えられたかなと思ひ、うれしく思う。
この民泊という取り組みは、次世代を担う子供たちの成長に大変役立つと思つている。

③ 記憶に残るエピソード

ばばが泣いた？
ある日の夕食を食材の用意から調理まで、すべて子供たちに任せてみた。すると家内が、「ここに嫁いで五十年、座ったまま他の人に作ってもらったご飯を食べたのははじめて。楽しさせてもらつて、とつてもうれしい」と涙ぐんだ。
子供たちはその言葉と涙ぐむ様子を見て、口々に「ばばが喜んでくれてうれしい」と言ってくれた。子供たちの行為を、素直に喜ぶことが、どんなに大切で素晴らしいことか。今更ながら感じさせてもらった。このこともたちの幸多かれと願ひながら、民泊最終日を迎え、名残を惜しみながら手を振つて見送つた。



Mさんの場合

① 受け入れの理由

『なんとかなるさ』で引き受ける
受け入れ先が決まらなと、困つた様子でお願いされ、あまり深く考えずに『何とかかなるさ』で引き受けました

② 実際受け入れてみての感想

さわやかな風が家の中を駆け巡る
衛生面では気を使つたけれど、一緒にご飯をつくつたり、柿の皮むきをしたり（恐ろしく下手）、散歩したり：etc
いつもの生活の中に少し人数が増えただけ、さわやかな風が家の中を駆け巡り子供たちからいっばい元気がもたら、そんな楽しいひとときでした

③ 記憶に残るエピソード

少しは瘦せたかな？
日ごろ使っていない部屋の大掃除と布団の用意で、階段を上がつたり下りたり、少しは瘦せたかな？（引き受けてから当日までの日にちが短かつた）
（余談）年賀状が届いたよ（部活で頑張つている様子の写真入り）

現時点での受け入れ家庭の件数
鹿野地区：33件
民泊家庭目標登録件数
鹿野地区目標数：50件

民泊のスケジュール(例)



「地域医療とまちづくりを考える」講演会を開催して

★講演会の報告書は「コアプラザ」にあります

明るく元気な鹿野をつくる会
会長 長嶺 敏昭

「明るく元気な鹿野をつくる会」設立十周年でもある昨年十二月に「地域医療とまちづくりを考える」と題しての特別講演会、シンポジウムを開催したところ公民館2階講堂に満員の来場者にお越しいただき誠にありがとうございました。自治医科大学の梶井英治先生、コミュニティナーズとして活躍の矢田明子さんというインパクトのある講師をお迎えできたことはもちろんですが、人口減少、

高齢化が進む鹿野地域においては地域医療とまちづくりは将来の課題であり、関心が高かつたのではないのでしょうか。

今回、ご示唆いただいたことは、「みんな」を支え合い、「お互い」に「ありがとう」の気持ちで、少しの負担や犠牲は地域のために受け止めて豊かな地域にしていかなければなりません。そのためには「一歩前」に進む挑戦が必要で、若者の流入への期待と地域の優しい受け入れが先進的な中山間地域となる鍵であると思ひます。



満員の会場

山口県立総合医療センター

へき地医療支援部
診療部長 原田 昌範

十二月四日、パネリストのひとりとしてお招きいただきありがとうございます。次世代の学生さんを含む多くの方と「地域医療とまちづくり」について語り合えたことに心より感謝申し上げます。何よりもコミュニティ（地域住民）が主体的に企画しており、他の地域よりずっと「先進的」な取り組みだったことに感銘を受けました。

鹿野は、父の里であり、幼い頃からよく祖父母に会いに来ていた思い出深い地域です。

十年前、鹿野診療所に勤務した際、主治医として在宅で祖父を看取りました。患者家族の立場にもなり、住み慣れた地域で最期まで暮らしていくことは、医療だけでは難しいことを経験しました。「これからのふるさと山口県の中山間地域をいかに守るのか」という難題に取り組むため、昨年四月より再び鹿野に関わる機会をいただいています。お世話になった鹿野の皆様と一緒に、しっかりと取り組んでいきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

明るく元気な鹿野をつくる会
健康福祉部長 石川 光夫

去る十二月四日に開催しました地域医療とまちづくりの講演会に沢山の参加ありがとうございました。講師の先生方の講演やパネルディスカッションを熱心にご聴講され、会場でおこなったアンケート調査にも、沢山の方々がご感想やこれからの医療やまちづくりについて、建設的なご意見をいただき、関心の深さが読み取れました。
ことにまちづくりは他人や行政がしてくれるものではなく、「自分たちが力を出し合い自らの手で作り上げていかなければ」とのご意見が多数寄せられたのを見て、今回の講演会の意義があつたことを痛感しました。
地域医療の充実が重要であることは勿論ですが、一人健康福祉部会の力だけでは完成できるものではありませんし、多分野の方々のご協力が必要なことは申すまでもありません。また、今鹿野地区に必要なことは、医療福祉のみならず、地域の諸課題の解決に向けた夢プランを作り上げていくことです。
そして、みんなが助け合い協力しながら、作り上げた夢プランの実現に取り組んで行くのではありませんか。



左から梶井先生、矢田さん、原田先生